



Dynamics 365 for Customer Engagementアダプタのご紹介

2021年9月版

対象製品 / サービス

DataSpider Servista

DataSpider Cloud

Copyright © Saison Technology Co., Ltd. All Rights Reserved.

株式会社セゾンテクノロジー

HULFT

目次

■ Dynamics 365 for Customer Engagementアダプタ

- Dynamics 365 for Customer Engagementアダプタとは
- 連携イメージ
- 利用イメージ
- アダプタ機能一覧
- エンティティ読み取り処理
- エンティティ書き込み処理
- エンティティ削除処理

■ アダプタの接続設定

- 接続設定について
- 「接続先」の設定
- 「認証」の設定

Dynamics 365 for Customer Engagement アダプタ

DataSpider Servista	DataSpider Cloud
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

…提供あり / …提供なし

Dynamics 365 for Customer Engagement アダプタとは

■ アプリケーションと連携

Microsoft社の製品である「Dynamics 365 for Customer Engagement（旧名称：Dynamics CRM）」のエンティティに対して、読み取り/書き込み/削除が実行できるアダプタです。

APIの知識がなくても、また、コーディングもすることなく、多種多様なシステムやデータとの連携が可能になりました。

● ポイント

DataSpiderなら、Dynamics 365 for Customer Engagementに作成された各種アプリケーションとの連携が可能です。

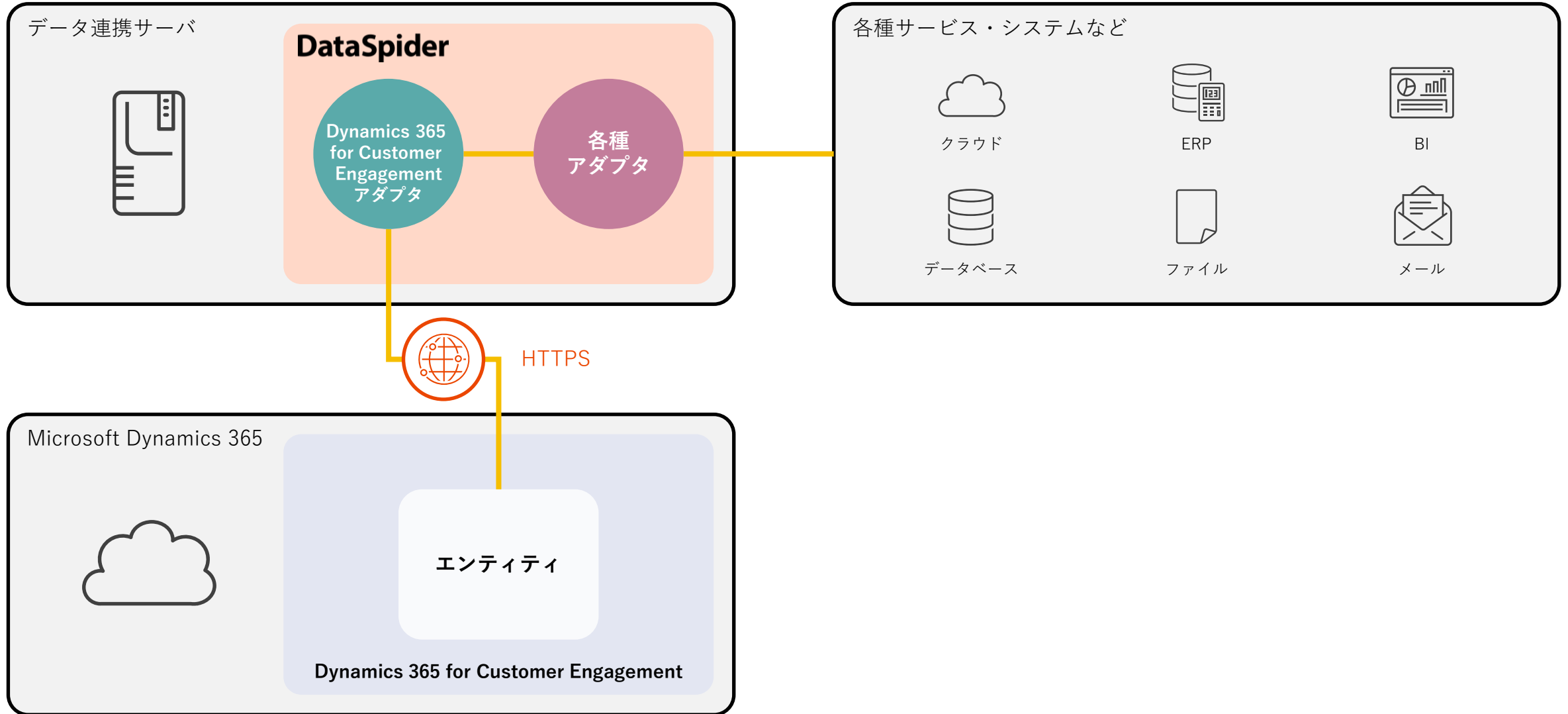
• SFA/CRM 連携

フロントエンドの「Dynamics 365 for Customer Engagement」と、バックエンドのERPパッケージ等との連携が可能になりました。様々な外部データと組み合わせての活用や、Dynamics 365 for Customer Engagement内のデータを様々な外部システムで活用することが可能になりました。

• BI・帳票アプリケーションとの連携

「Dynamics 365 for Customer Engagement」から抽出したデータを、外部のBIツールなどで分析することや、帳票として出力できるようになりました。

連携イメージ

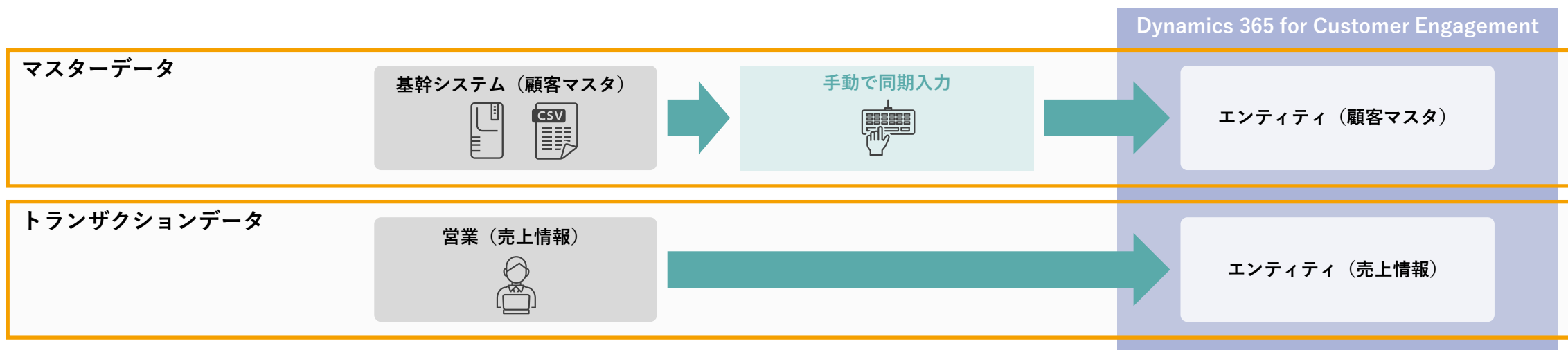


利用イメージ（課題）



Dynamics 365 for Customer Engagementを活用しはじめたが、基幹システムも併用しており、マスターデータなどを手動で同期している。

基幹システムを補助するため、Dynamics 365 for Customer Engagementを導入し、営業担当が売上情報を入力している。しかし、顧客マスタなどのマスターデータは基幹システムから同期する必要があるが、現状は手動で実施しており、多くの工数が掛かっている。また、BIツールで分析なども行いたいですが、運用の手間がネックとなり導入が進まない。

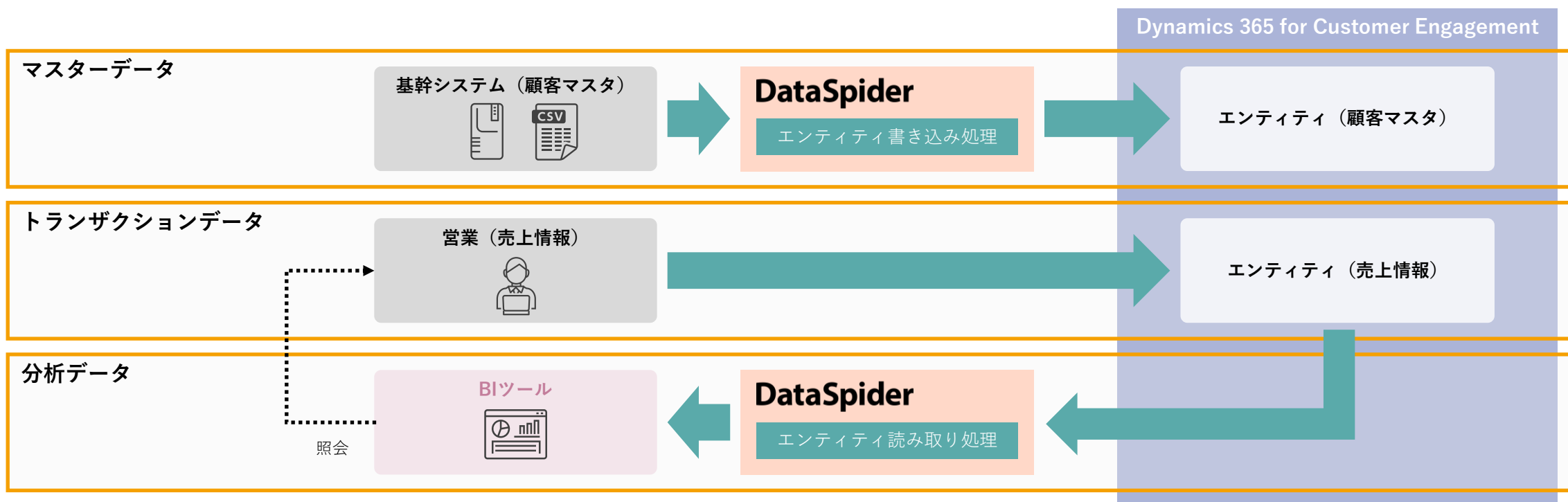


利用イメージ（解決）



同期を自動化し、BIツール連携を実現します。

DataSpiderが基幹システムからデータを読み取り、Dynamics 365 for Customer Engagementへの書き込みを自動化。また、BIツールへのデータ連携も複雑な作り込みをせず実現します。



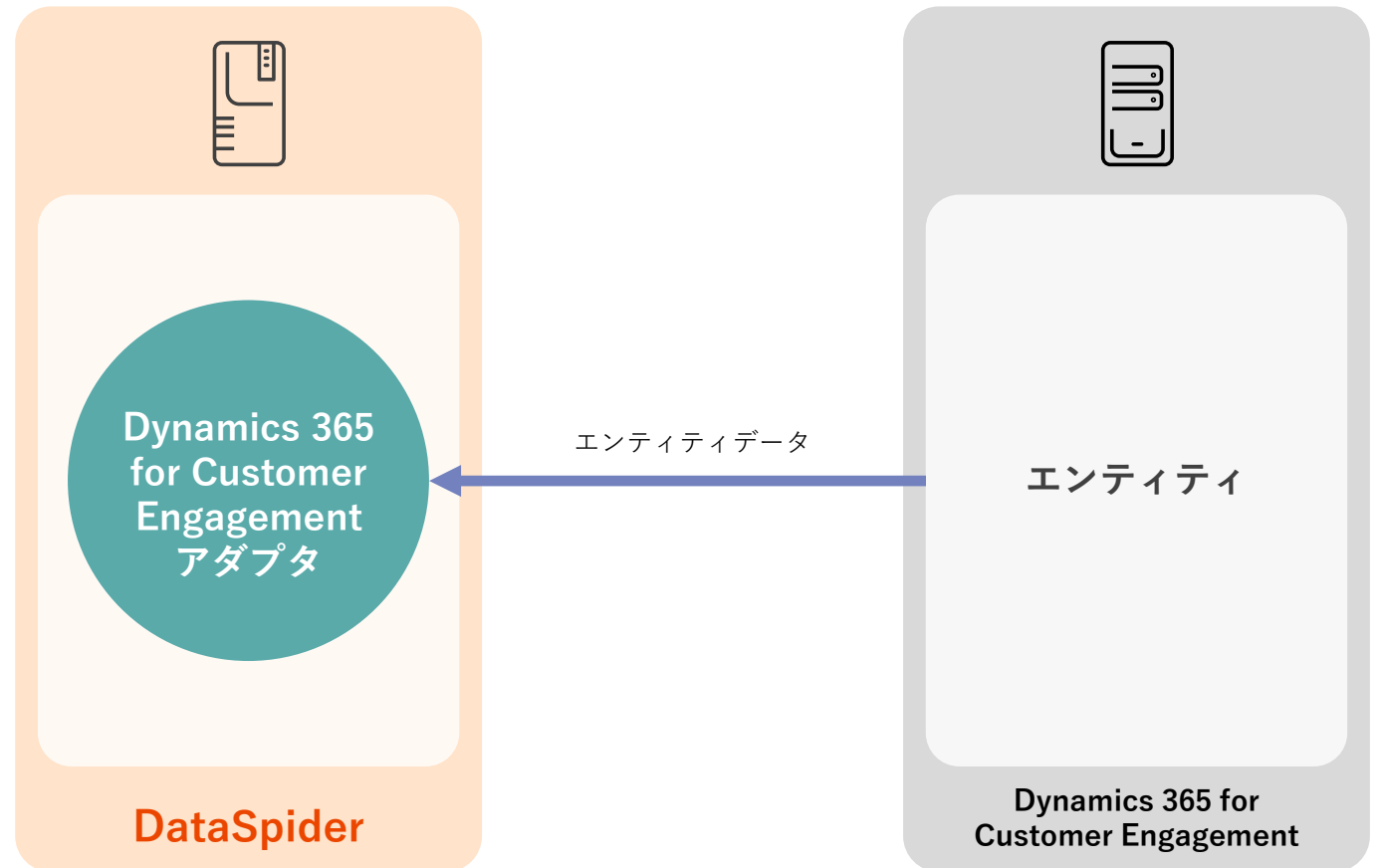
アダプタ機能一覧

○ …提供あり
- …提供なし

種別	名称	概要説明	DataSpider Servista	DataSpider Cloud
処理	エンティティ読み取り	エンティティを読み取ります。	○	○
	エンティティ書き込み	入力データをエンティティに書き込みます。	○	○
	エンティティ削除	エンティティを削除します。	○	○

テーブル読み取り処理

エンティティを読み取ります。



エンティティ書き込み処理

入力データをエンティティに書き込みます。

入スキーマを編集することで、関連するエンティティの作成/更新や関連の解除を行う事ができます。

新規エンティティ書き込み処理

エンティティ書き込み処理

新規エンティティ書き込み処理

名前(N): put_entity

入力データ(I): (入力データなし)

必須設定 キー設定 オプション設定 データ処理方式 コメント

接続先(O): (選択してください)

認証(I): (選択してください)

エンティティセット名一覧を更新(E)

リソースパス(S):

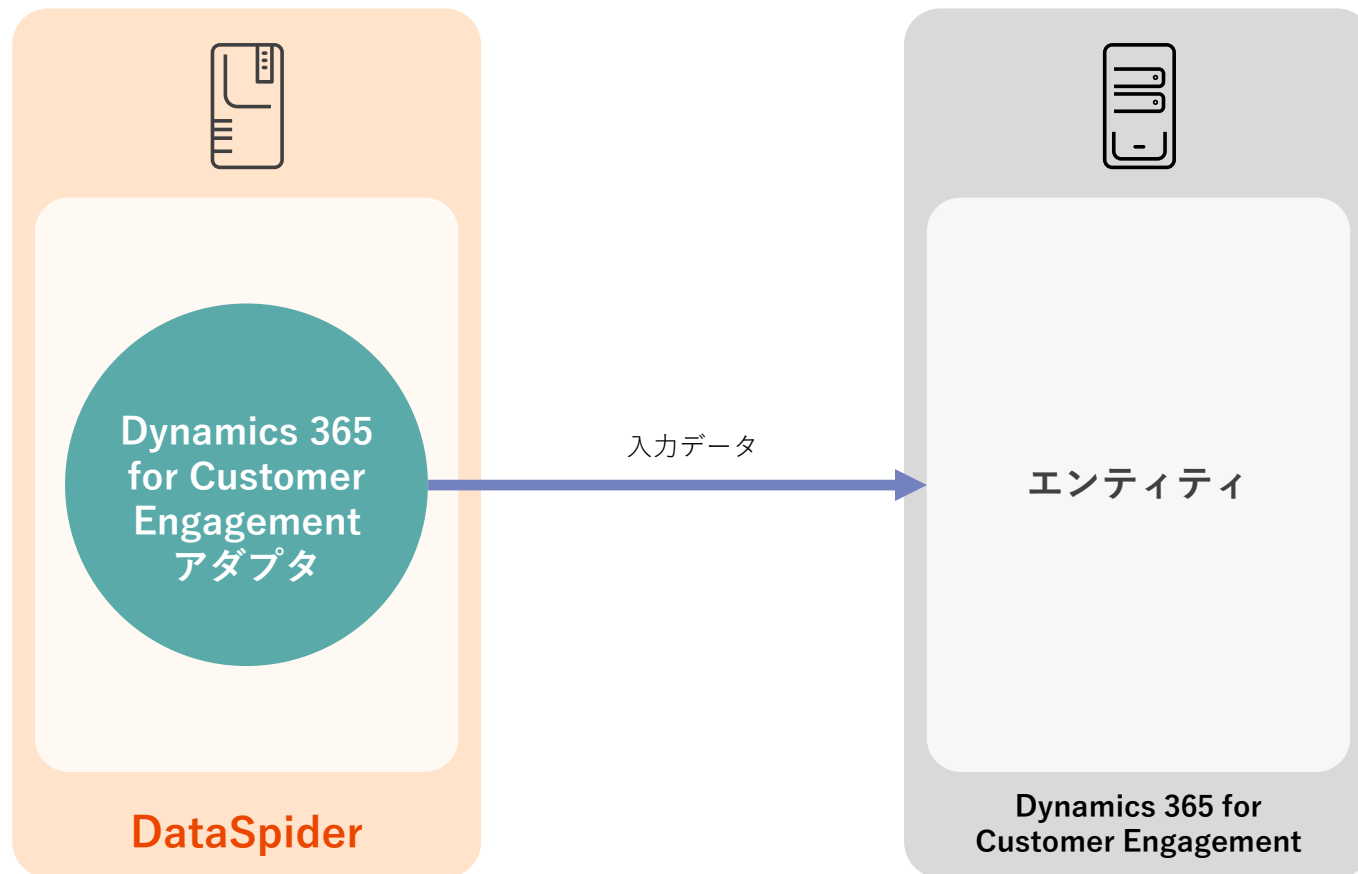
フィールド表示名を取得する(W)

フィールド定義を更新(L)

フィールド定義

<input type="checkbox"/> 書き込み対象	主キー	フィールド名	フィールド表示名	型
---------------------------------	-----	--------	----------	---

完了(E) 取消



エンティティ削除処理

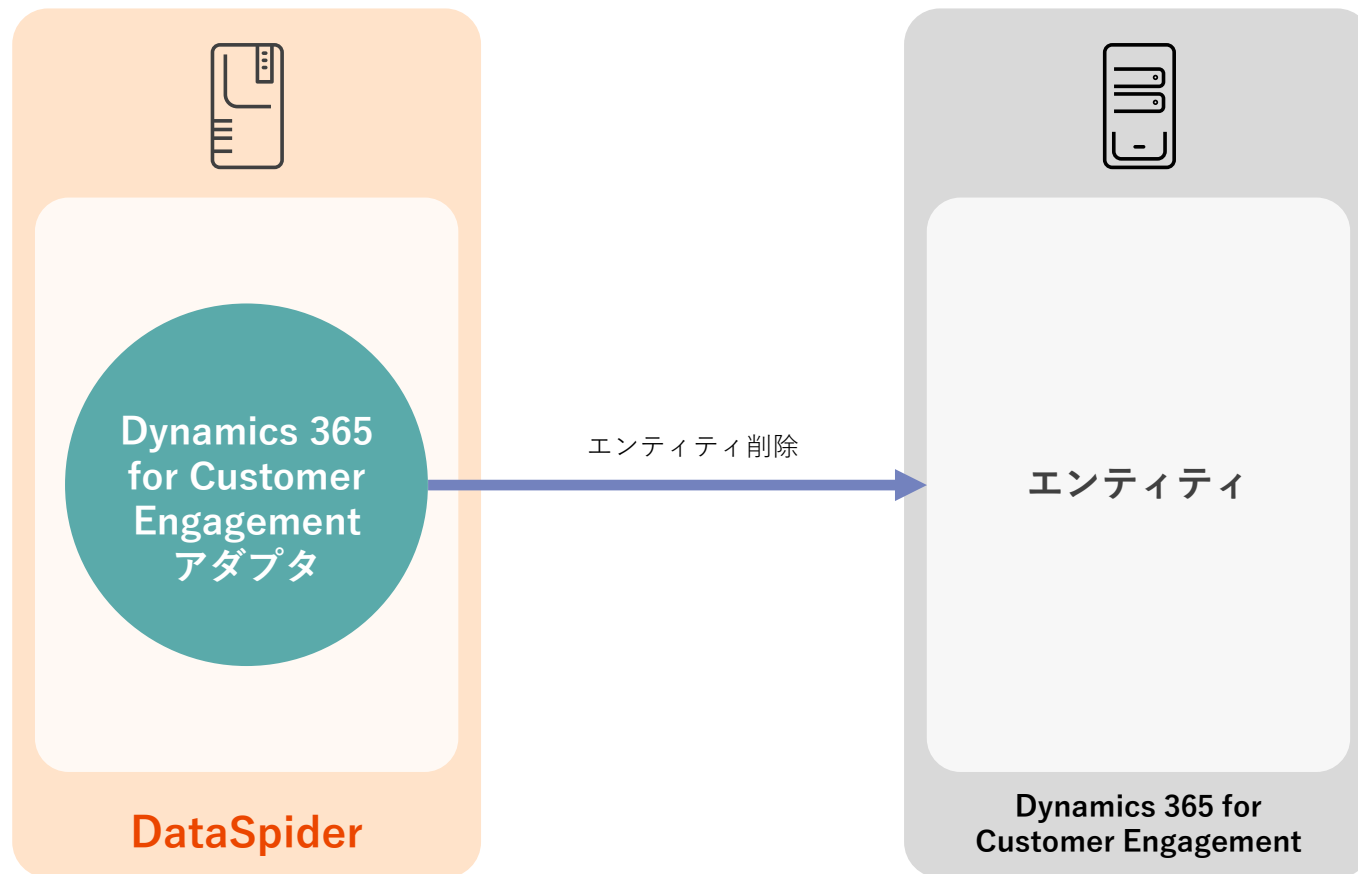
エンティティを削除します。

The screenshot shows a dialog box titled '新規エンティティ削除処理' (New Entity Deletion). It contains the following fields and options:

- 名前(N): delete_entity
- 入力データ(I): (入力データなし)
- タブ: 必須設定 | オプション設定 | データ処理方式 | コメント
- 接続先(O): (選択してください)
- 認証(I): (選択してください)
- リソースパス(S):
- フィールド表示名を取得する(W)
- フィールド定義表:

<input type="checkbox"/> 主キー	フィールド名	フィールド表示名	型
------------------------------	--------	----------	---

Buttons: 完了(E), 取消



本資料は2019年5月におけるDynamics 365 for Customer EngagementおよびMicrosoft Azure Active Directoryにおける接続設定方法となります。
今後ユーザーインターフェースの変更などにより本資料の画像とは操作方法が異なる可能性があります。

アダプタの接続設定

DataSpider Servista	DataSpider Cloud
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

…提供あり / …提供なし

接続設定について

Dynamics CRMアダプタの各オペレーションコンポーネントを利用する場合には、「接続先」および「認証」を指定するため、それぞれについて、グローバルリソースを作成する必要があります。

新規エンティティ読み取り処理

名前(N): get_entity

接続先(Q): (選択してください)

認証(I): (選択してください)

リソースパス(S):

フィールド定義

読み取り対象	フィールド名	フィールド表示名	型
--------	--------	----------	---

完了(E) 取消

「接続先」及び「認証」が設定されれば、「リソースパス」、「フィールド定義」が表示されます。

「接続先」：利用するDynamics 365 for Customer Engagementのインスタンスを指定します。

新しいグローバルリソースの作成

接続の設定

接続名(N): Dynamics 365 for Customer Engagement接続設定

種類(Y): デフォルト

接続タイプ(R): Dynamics 365 for Customer Engagement (Dynamics 365 for Customer...)

サービスのルートURL(S):

「認証」：「接続先」インスタンスAPI利用の認証・認可を行います。

新しいグローバルリソースの作成

接続の設定

接続名(N): OpenID Connect 1.0認証設定

種類(Y): デフォルト

接続タイプ(R): OAuth 2.0 (OpenID Connect 1.0認証設定)

クライアントID(C):

クライアントシークレット(S):

リダイレクトURI(E):

OpenID Configuration URL:

OpenID Connect 1.0の接続設定を行います。
接続設定を行うとリフレッシュトークンが取得できます。
アクセストークンは、有効期間があります。



「接続先」の設定

サービスのルートURLの確認場所 (1/2)

「開発者リソース」を確認できるDynamics 365 ユーザーでログインし、「設定」→「カスタマイズ」→「開発者リソース」をクリックします。

The screenshot shows the Dynamics 365 user interface. At the top, the navigation bar includes 'Dynamics 365', '設定' (Settings), and 'カスタマイズ' (Customization). Below this, a horizontal menu contains 'CRM', '営業' (Sales), 'サービス' (Service), 'マーケティング' (Marketing), and '設定' (Settings). The '設定' menu item is highlighted with a red box. An arrow points from this box to the 'カスタマイズ' (Customization) menu item in the 'システム' (System) section of the main navigation pane. Another arrow points from the 'カスタマイズ' menu item to the '開発者リソース' (Developer Resources) option in the '作業時に使用する機能を選択してください' (Select features to use during work) section. The '開発者リソース' option is also highlighted with a red box.

サービスのルートURLの確認場所 (2/2)

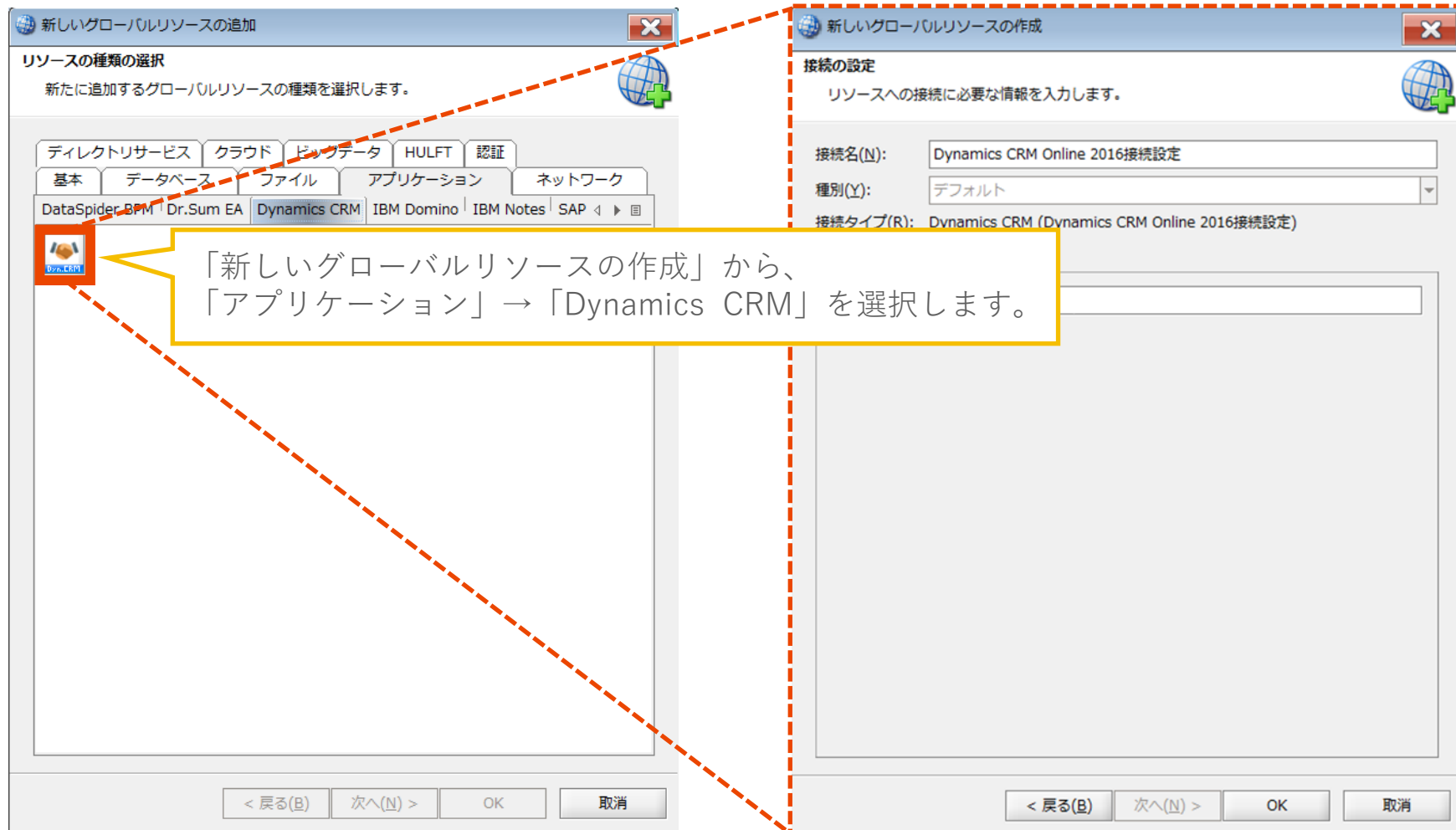
「インスタンスのWeb API」にある「サービスのルートURL」を確認します。接続設定で使用するため、設定値を控えておきます。

The screenshot shows the Dynamics 365 developer resources page. The top navigation bar includes 'Dynamics 365', '設定' (Settings), and 'カスタマイズ' (Customize). Below the navigation bar, there are links for '開発者リソース' (Developer Resources), 'はじめに' (Getting Started), 'デベロッパー センター' (Developer Center), '開発者フォーラム' (Developer Forum), 'SDK NuGet パッケージ' (SDK NuGet Packages), 'SDK のダウンロード' (SDK Downloads), 'サンプル コード' (Sample Code), and '開発者向けの概要' (Overview for Developers). The 'Dynamics 365 のこのインスタンスにアプリを接続する' (Connect an app to this instance of Dynamics 365) section is highlighted with a red box. It contains two sub-sections: 'インスタンスの Web API' (Instance Web API) and '組織のサービス' (Organization Services). The 'インスタンスの Web API' section shows the service root URL as 'https://[redacted].dynamics.com/api/data/v9.1/'. The '組織のサービス' section shows the endpoint address as 'https://[redacted].dynamics.com/XRMServices/2011'. A yellow arrow points from the 'サービスのルート URL' (Service Root URL) text in the red box to a yellow box containing explanatory text.

P.18 「Dynamics CRM グローバルリソースの必須設定」および、
P.33で「OpenID Connect 1.0認証設定」の「詳細設定の値を入力する」際に一部を使用する値のため、
「サービスのルートURL」の設定値を別途テキストファイル等にコピーして控えてください。

Dynamics CRMグローバルリソースの作成 (1/2)

DataSpider Studio のコントロールパネルから [グローバルリソースの設定]を開く。



Dynamics CRMグローバルリソースの作成 (2/2)

「必須設定」タブに「サービスのルートURL」を設定し、OKボタンを押下するとDynamics CRMグローバルリソースの作成が完了します。

新しいグローバルリソースの作成

接続の設定

リソースへの接続に必要な情報を入力します。

接続名(N): Dynamics CRM Online 2016接続設定

種別(Y): デフォルト

接続タイプ(R): Dynamics CRM (Dynamics CRM Online 2016接続設定)

必須設定 セキュリティ

サービスのルートURL(S): **https://h...s.dynamics.com/api/data/v9.1/**

< 戻る(B) 次へ(N) > OK 取消

事前に確認した「サービスのルートURL」を設定します。

「認証」の設定

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (1/11)

「認証」のグローバルリソースを作成する前提として、DataSpider ServistaをAzure ADで保護されたAPIを利用するアプリケーションとしてAzure ADテナントに登録します。

Azure ポータルから、「アプリの登録」→「新規登録」をクリック

Microsoft Azure

ホーム > アプリの登録

アプリの登録

+ 新規登録 | エンドポイント | トラブルシューティング | Got feedback?

新しく強化されたアプリの登録へようこそ (一般提供になりました)。新機能をご確認ください →

アプリの登録 (レガシ) からの変更点を確認する場合 [詳細情報](#)
アプリの登録 (レガシ) の使用を続けますか? [前に戻って理由をお聞かせください](#)

すべてのアプリケーション | 所有しているアプリケーション

名前またはアプリケーション ID を入力し始めると結果がフィルター処理されます

表示名	アプリケーション (クライアント) ID	作成日時	証明書とシークレット
DC Dynamics CRM Adapter Test 20190	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	2019年2月...	✓ 現在
TE testdemo20190520	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	2019年5月...	✓ 現在

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (2/11)

アプリケーションの「名前」、「サポートされているアカウントの種類」、「リダイレクトURI」を設定・選択し、登録します。

ホーム > アプリの登録 > アプリケーションの登録

アプリケーションの登録

*** 名前**
このアプリケーションのユーザー向け表示名 (後ほど変更できます)。
Dynamics CRM_demo ✓

サポートされているアカウントの種類
このアプリケーションを使用したりこの API にアクセスしたりできるのはだれですか?
 この組織のディレクトリ内のアカウントのみ ()
 任意の組織のディレクトリ内のアカウント
 任意の組織のディレクトリ内のアカウントと、個人用の Microsoft アカウント (Skype、Xbox、Outlook.com など)
[選択に関する詳細...](#)

リダイレクト URI (省略可能)
ユーザー認証が成功すると、この URI に認証応答を返します。この時点での指定は省略可能で、後ほど変更できますが、ほとんどの認証シナリオで値が必要となります。
Web ✓ http://localhost:7700/dataspider/openidconnect_1_0 ✓

続行すると Microsoft プラットフォーム ポリシーに同意したことになります [?]

登録

- **名前**
任意の名称を設定
- **サポートされているアカウントの種類**
環境に即したアカウントを設定
- **リダイレクトURI**
 - アプリケーションの種類
Web
 - リダイレクトURI
http://<DataSpiderServer稼働OSのホスト名またはIPアドレス>:<ポート番号>/dataspider/openidconnect_1_0

P.32で「必須設定の値を入力する」際に使用する値のため、「**リダイレクトURI**」の設定値を別途テキストファイル等にコピーして控えておきます。

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (3/11)

アプリケーションの登録が完了すると、「概要」画面に遷移するので、画面上の「アプリケーション(クライアント)ID」を確認します。

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo

Dynamics CRM_demo

概要

クイック スタート

管理

ブランド

認証

証明書とシークレット

API のアクセス許可

API の公開

所有者

マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

トラブルシューティング

新しいサポート要求

削除 エンドポイント

表示名 サポートされているアカウントの種類
所属する組織のみ
Dynamics CRM_demo

アプリケーション (クライアント) ID

ディレクトリ (テナント) ID

オブジェクト ID

新しく強化されたアプリの登録へようこそ。アプリの登録 (レガシ) からの変更点を確認することをご希望ですか? [詳細](#)

API の呼び出し

ドキュメント

Microsoft ID プラットフォーム
認証シナリオ
認証ライブラリ
コード サンプル

P.32で「必須設定の値を入力する」際に使用する値のため、「**アプリケーション(クライアント)ID**」の設定値を別途テキストファイル等にコピーしておきます。

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (4/11)

トークンの要求時に自身の ID を証明するために使用するクライアントシークレットを取得します。

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo - 証明書とシークレット

Dynamics CRM_demo - 証明書とシークレット

概要
クイック スタート

管理

- ブランド
- 認証
- 証明書とシークレット**
- API のアクセス許可
- API の公開
- 所有者
- マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

- トラブルシューティング
- 新しいサポート要求

資格情報は、Web アドレスの指定が可能な場所で (HTTPS スキーマを使用して) トークンを受信する際に、アプリケーションが認証サービスに対して自身を識別できるようにするためのものです。より高いレベルで保証するには、資格情報として (クライアント シークレットではなく) 証明書を使うことをお勧めします。

証明書

証明書は、トークンの要求時にアプリケーションの ID を証明するシークレットとして使用できます。公開キーとも呼ばれます。

↑ 証明書のアップロード

このアプリケーションには証明書が追加されていません。

クライアント シークレット

トークンの要求時にアプリケーションが自身の ID を証明するために使用する秘密の文字列です。アプリケーション パスワードと呼ばれることもあります。

+ 新しいクライアント シークレット

説明	有効期限	値
----	------	---

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (5/11)

「クライアントシークレットの追加」画面にて「説明」、「有効期限」を設定・選択し、追加します。

クライアントシークレットの追加

説明
Secret Key

有効期限
 1年
 2年
 なし

追加 キャンセル

クライアントシークレット

トークンの要求時にアプリケーションが自身の ID を証明するために使用する秘密の文字列です。アプリケーション パスワードと呼ばれることもあります。

+ 新しいクライアントシークレット

説明	有効期限	値
----	------	---

「説明」
任意の値を設定します。

「有効期限」
「1年、2年、なし」から選択します。

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (6/11)

追加したクライアントシークレットが画面に表示されるので、設定値を確認する。

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo - 証明書とシークレット

Dynamics CRM_demo - 証明書とシークレット

新しいクライアント シークレット値をコピーしてください。このブレードから移動した後は、シークレット値を取得できなくなります。

資格情報は、Web アドレスの指定が可能な場所で (HTTPS スキーマを使用して) トークンを受信する際に、アプリケーションが認証サービスに対して自身を識別できるようにするためのものです。より高いレベルで保証するには、資格情報として (クライアント シークレットではなく) 証明書を使うことをお勧めします。

証明書

証明書は、トークンの要求時にアプリケーションの ID を証明するシークレットとして使用できます。公開キーとも呼ばれます。

証明書のアップロード

拇印	開始日	有効期限
このアプリケーションには証明書がまだありません。		

クライアントシークレット

トークンの要求時に使用するシークレット

新しいクライアント シークレット

説明	有効期限	値
Secret Key	2299年12月3...	00000000-0000-0000-0000-000000000000

※この時にしか値は参照できないので必ず控えてください。

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (7/11)

登録したアプリケーションにアクセス許可の追加を行います。

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo - API のアクセス許可

Dynamics CRM_demo - API のアクセス許可

API のアクセス許可

アプリケーションが API を使用する承認を得るには、アクセス許可を要求します。これらのアクセス許可は、同意を得るプロセスの間に表示ユーザーがアクセスを許可/拒否する機会が与えられます。

+ アクセス許可の追加

API / アクセス許可の名前

Microsoft Graph (1)

API / アクセス許可の名前	委任済み	説明	
User.Read	委任済み	Sign in and read user profile	-

これらは、このアプリケーションが静的に要求するアクセス許可です。コードを使用して、ユーザーの同意が可能なアクセス許可を動的に要求することもできます。 [アクセス許可を要求するためのベスト プラクティスを参照する](#)

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (8/11)

「Microsoft API」の中から「Dynamics CRM」を選択します。

The screenshot shows the Azure Active Directory application registration page. The breadcrumb navigation is 'ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo'. The page title is 'API アクセス許可の要求'. Below the title, it says 'API を選択します'. There are two tabs: 'Microsoft API' (selected) and '所属する組織で使用している API 自分の API'. The main content area displays a grid of API options:

Azure Rights Management Services 検証済みのユーザーに、保護されたコンテンツの読み取りと書き込みを許可します	Azure Service Management Azure portal で利用できる機能の大部分へのプログラムによるアクセス	Data Export Service for Microsoft Dynamics 365 Microsoft Dynamics CRM 組織から外部宛先にデータをエクスポートします
Dynamics 365 Business Central Dynamics 365 Business Central のデータと機能へのプログラムによるアクセス	Dynamics CRM CRM ビジネス ソフトウェアと ERP システムの機能にアクセスします	Flow Service フロー テンプレートの埋め込みとフローの管理
Intune	Office 35 Management APIs	OneNote

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (9/11)

「アクセス許可」にチェックを入れ、「アクセス許可の追加」をクリックします。

The screenshot shows the 'API Access Permissions' configuration page for the 'Dynamics CRM' application. The left sidebar contains navigation options: Home > App Registrations > Dynamics CRM, Summary, Quick Start, Management, Brand, Authentication, Certificates and Secrets, API Access Permissions (highlighted), API Public, Owners, and Manifest. The main content area is titled 'API Access Permissions' and includes a breadcrumb for 'all APIs'. The application details for 'Dynamics CRM' are shown, including the URL 'https://admin.services.crm.dynamics.com/'. A section titled 'Types of access permissions required for the application' contains two boxes: 'Delegated access permissions' (highlighted with an orange box) and 'Application permissions'. Below this is a search bar and a list of permissions. The 'user_impersonation' permission is checked (highlighted with an orange box). At the bottom, the 'Add Access Permissions' button is highlighted with an orange box, and the 'Cancel' button is also visible.

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (10/11)

「概要」画面に移動し、「エンドポイント」をクリックします。

ホーム > アプリの登録 > Dynamics CRM_demo

Dynamics CRM_demo

概要

クイック スタート

管理

- ブランド
- 認証
- 証明書とシークレット
- API のアクセス許可
- API の公開
- 所有者
- マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

- トラブルシューティング
- 新しいサポート要求

エンドポイント

表示名	サポートされているアカウントの種類
Dynamics CRM_demo	所属する組織のみ
アプリケーション (クライアント) ID	リダイレクト URI
7aff4097-6da1-4112-bc14-0987e6de577e	1 Web, 0 パブリック クライアント
ディレクトリ (テナント) ID	ローカル ディレクトリでのマネージド アプリケーション
351efc9e-c398-4d8c-9152-79913c7cf4ce	サービス プリンシパルの作成
オブジェクト ID	
079299dc-9afc-4c91-b181-6d8f06c6ed0d	

新しく強化されたアプリの登録へようこそ。アプリの登録 (レガシ) からの変更点を確認することをご希望ですか? [詳細情報](#)

API の呼び出し

ドキュメント

- Microsoft ID プラットフォーム
- 認証シナリオ
- 認証ライブラリ
- コード サンプル
- Microsoft Graph

Azure Active Directoryでのアプリ登録 (11/11)

「OpenID Connect メタデータドキュメント」の値を確認します。



概要

クイック スタート

管理

ブランド

認証

証明書とシークレット

API のアクセス許可

API の公開

所有者

マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

トラブルシューティング

新しいサポート要求

エンドポイント

OAuth 2.0 承認エンドポイント (v2)
クリップボードにコピー
<https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/oauth2/v2.0/authorize>

OAuth 2.0 トークン エンドポイント (v2)
<https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/oauth2/v2.0/token>

OAuth 2.0 承認エンドポイント (v1)
<https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/oauth2/authorize>

OAuth 2.0 トークン エンドポイント (v1)
<https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/oauth2/token>

OpenID Connect メタデータドキュメント
<https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/v2.0/.well-known/openid-configuration>

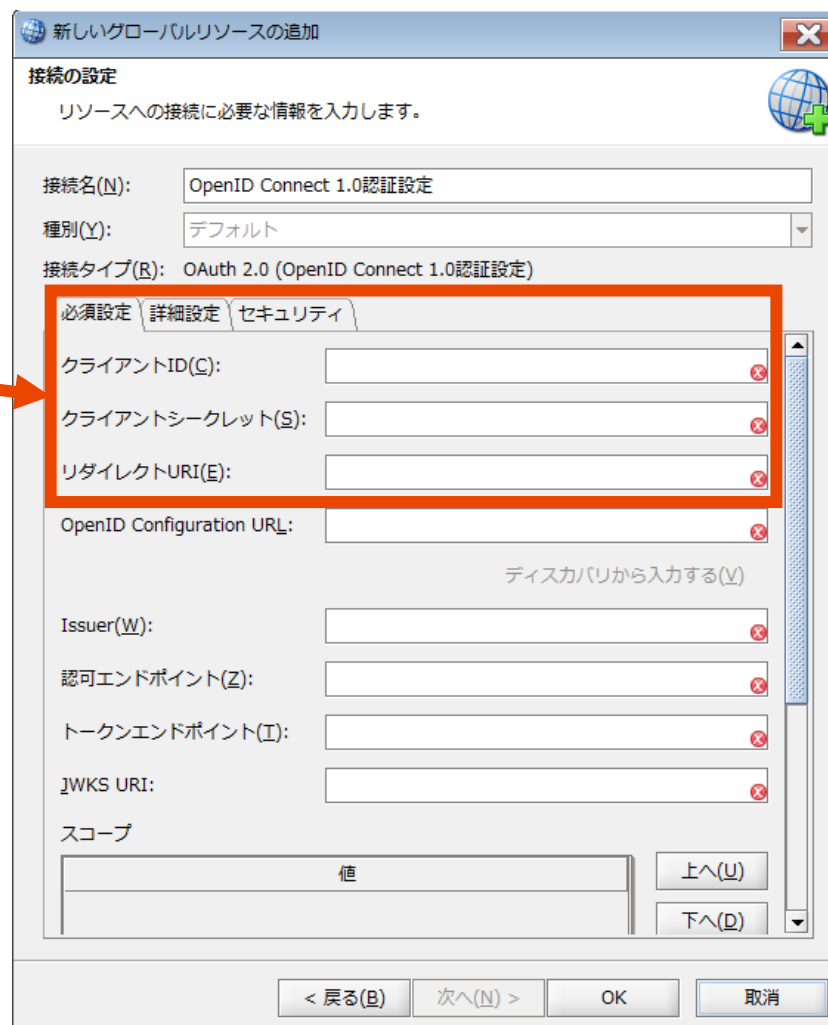
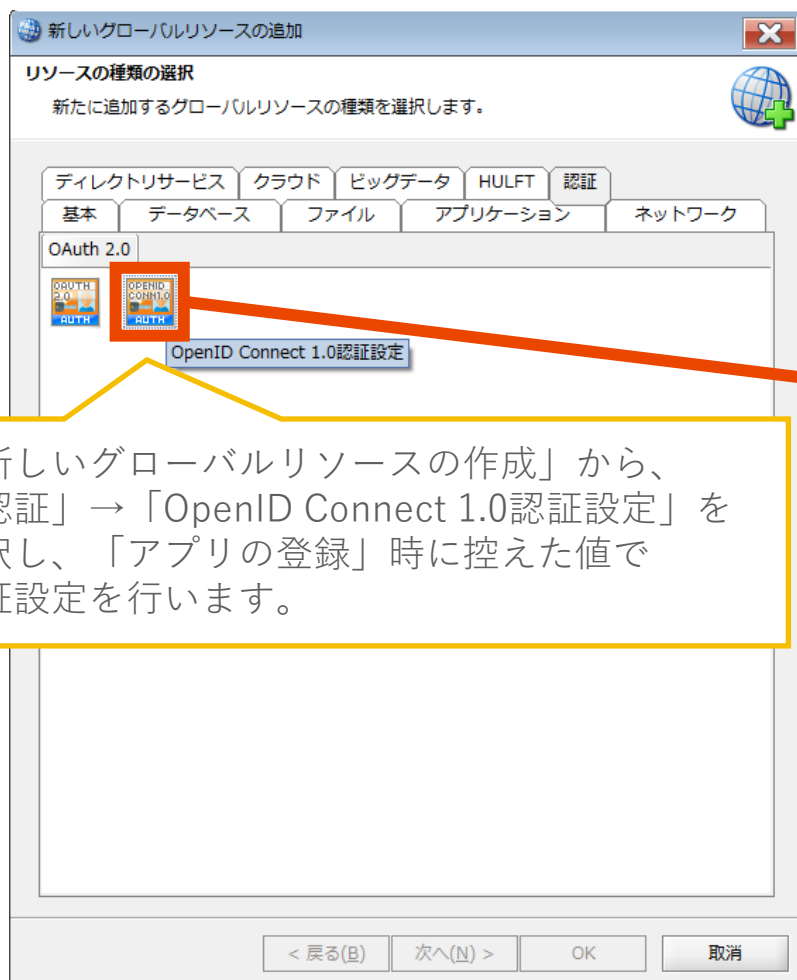
Microsoft Graph API

P.32で「必須設定の値を入力する」際に使用する値のため、
「/v2.0」を除去したURLを控えておきます。

<https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/well-known/openid-configuration>

OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (1/6)

新規にグローバルリソースを作成します。



OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (2/6)

必須設定の値を入力します。

必須設定 詳細設定 セキュリティ

クライアントID(C): ✖

クライアントシークレット(S): ✖

リダイレクトURI(E): ✖

OpenID Configuration URL: ✖

ディスクバリから入力する(V)

「必須設定」タブの「クライアントID」、「クライアントシークレット」、「リダイレクトURI」、「OpenID Configuration URL」に値を設定します。設定後に、「ディスクバリから入力する」をクリックします。

- クライアントID
「アプリの登録」時の **アプリケーションID**
- クライアントシークレット
「アプリの登録」時の 証明書とシークレットで生成した **キーの値**
- リダイレクトURI
「アプリの登録」時の **リダイレクトURI**
`http://<DataSpiderServer稼働OSのホスト名>:<ポート番号>/dataspider/openidconnect_1_0`または IPアドレス
- OpenID Configuration URL
「アプリの登録」時の **テナントID をあてはめた下記URL**
`https://login.microsoftonline.com/<テナントID>/well-known/openid-configuration`

OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (3/6)

詳細設定の値を入力します。

「詳細設定」タブの「追加パラメータ」にキーと値を追加します。

- ・ キー
「resource」を追加
- ・ 値
P.16で控えておいた「サービスのルートURL」のうち、スキームとホスト名部分

OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (4/6)

認可コードの取得を行います。

スコープ

値
openid

クライアント認証方式(M): client_secret_post

追加(A)

トークンを発行する...(P)

「必須設定」タブの「スコープ」に openid を追加し、「トークンを発行する」をクリックします。

認可コードの設定

認可コードを取得して、下に貼り付けてください。貼り付けた後に、コピー元のブラウザタブは閉じてください。

認可コード

認可コード取得...

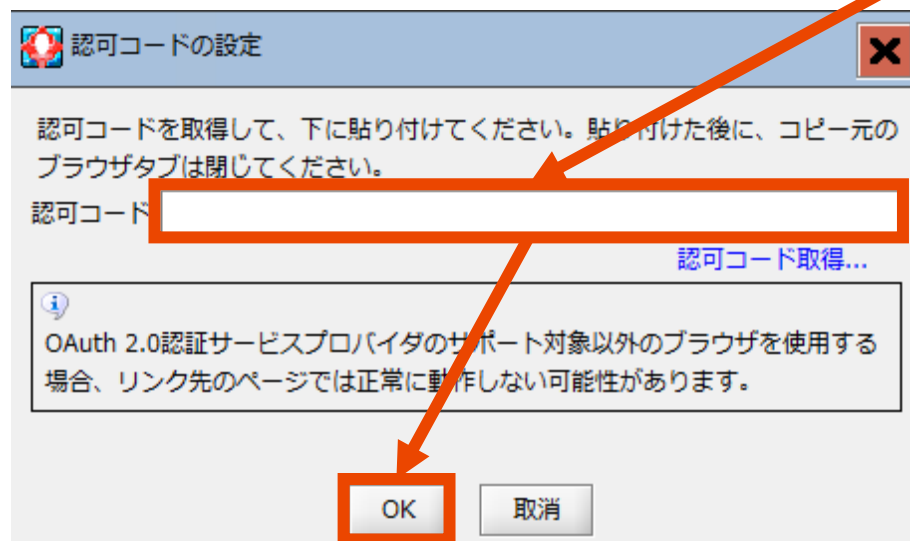
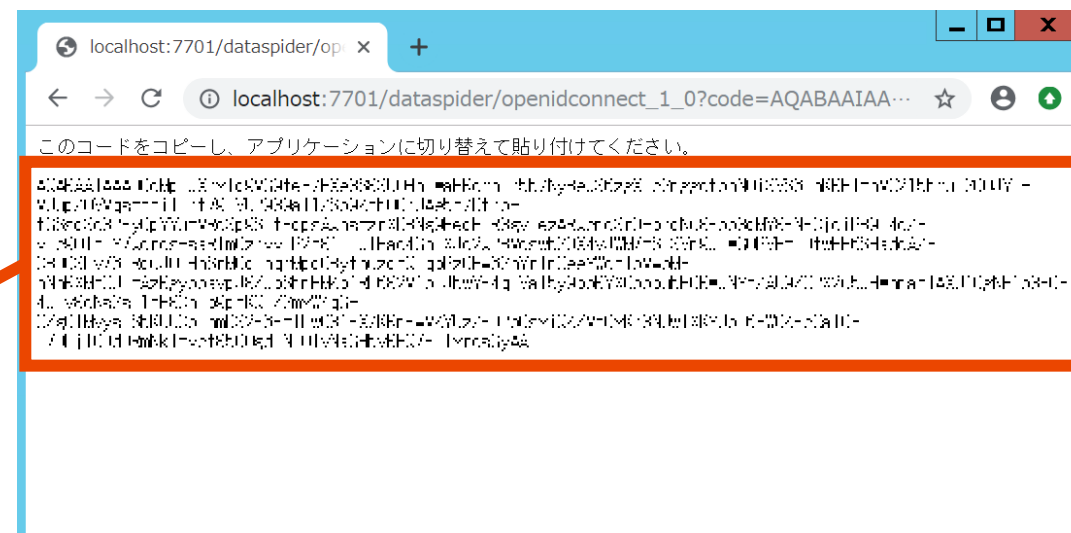
OAuth 2.0認証サービスプロバイダのサポート対象以外のブラウザを使用する場合、リンク先のページでは正常に動作しない可能性があります。

OK 取消

認可コードの設定画面が開くので、「認可コードの取得」のリンクをクリックします。

OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (5/6)

取得した認可コードを入力します。

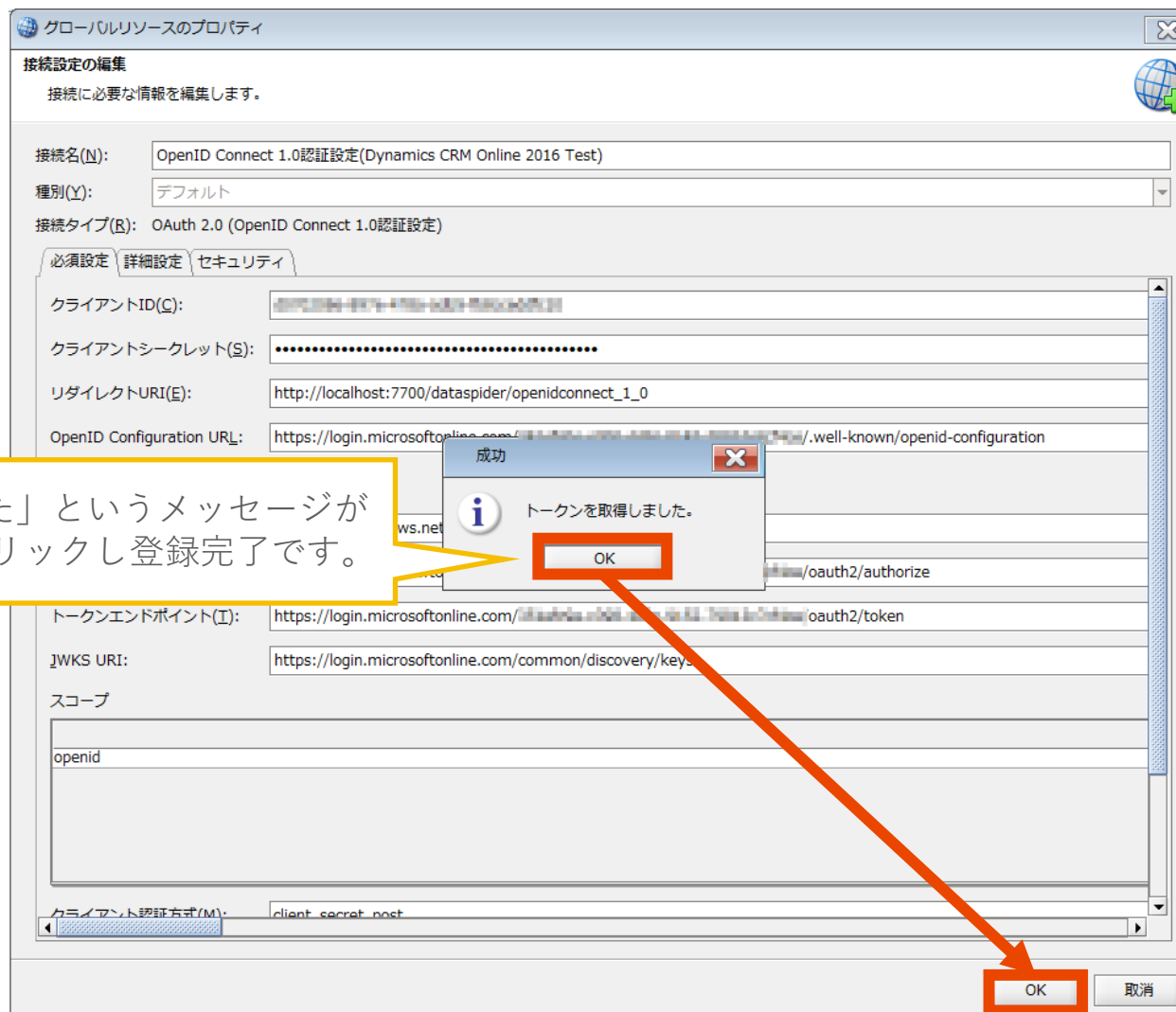


生成されたコードをコピーして「認可コード」に貼り付けます。

OpenID Connect 1.0認証設定の作成 (6/6)

グローバルリソースの設定を完了します。

「トークンを取得しました」というメッセージが表示されたら「OK」をクリックし登録完了です。



The image features decorative floral patterns in the corners. The top-right corner has a cluster of overlapping orange and yellow petals. The bottom-left corner has a larger, more dense pattern of similar petals. The rest of the background is plain white.

HULFT

Move knowledge. Move markets.